

## 1 法人概略

### 施設の再編集約等の背景

- 静岡県中部地域の3農協（JAしみず、JAおおいがわ、JAハイナン）は、選果機の老朽化による不具合や交換部品の生産終了等により、**メンテナンス費用の増加や選果機能の低下**を招き、**選果施設の運営に支障**が発生
- 担い手の減少や高齢化に伴い、**各選果施設の利用率は低下傾向**にあり、かんきつ産地の維持・拡大が難しくなっていた

### 再編集約等の概要

- 3農協それぞれが所有する**選果施設を1施設に集約**することで、**施設運営・選果コストを削減**するとともに、**施設利用率の向上**を図る
- **最新のAI選果機**の導入や**パレット出荷施設**の整備により、**選果作業を軽減**するとともに、**出荷規格とブランドを統一**し、**流通コストの削減と有利販売**につなげる

### 複数農協で施設（選果場）を再編・集約

#### JAおおいがわ

昭和47年整備  
利用率：34.2%  
処理量：830 t  
※集約後は一次集荷場



選果機能を集約

#### JAハイナン

昭和44年整備  
利用率：61.8%  
処理量：340 t  
※集約後は一次集荷場



#### JAしみず 広域柑橘共選場（中部支部集荷場）

平成10年と平成23年に整備した既存の建屋を活用しつつ、**AI選果機とパレット出荷用建物**を整備  
利用率：75.6%（現況）→100%（目標）  
処理量：6,650 t（現況）→7,500 t（目標）



+ AI選果機  
パレット出荷棟



流通コスト削減、ブランド統一、有利販売へ

## 2 課題と対応策



### 課題① 施設の再編・活用方針の決定



#### 単独改修の困難さの共有

##### ① 課題や現状の把握、目指す姿の確認

【施設の状況（3農協共通）】

柑橘選果場建設から15年以上経過。修繕に使用する部品の生産も終了。中古品で代替するもセンサー等の精度が改善されず、更に、枯渇した部品の確保に係る費用が増加しており、不具合が発生した場合、選果ラインの一時中断等が発生、稼働時間延長、人件費の増加等が発生する恐れ

【柑橘産地維持への課題（3農協共通）】

**生産者の高齢化や担い手不足により生産量が減少**

生産者数	令和元年度1,087戸	⇒	令和5年度876戸
取扱量	令和元年度7,500t	⇒	令和5年度7,090t

##### ② 施設再編・活用の具体的内容の検討

当初（平成28年頃）、各農協単独での選果施設改修を検討したが、コストを試算したところ、各農協とも現行施設の1.5倍から2倍の負担発生見込みとなり、単独改修が難しいとの結論

【各JA単独での設備更新後の施設利用料の生産者負担額を試算】

- ・ JAしみず単独 現在51円/kg ⇒ 67円/kg以上
- ・ JAおおいがわ単独 現在50円/kg ⇒ 150円/kg以上
- ・ JAハイナン単独 現在50円/kg ⇒ 150円/kg以上

【3JA連携による広域選果場を新設した場合の試算】

- ・ 3JA共同 65円/kg

##### ③ 大まかな方針や選択肢について組織内で意思統一

県中部エリアの組合長会にて、

単独改修が困難であるという共通課題を、各組合長間で共有



## 課題② 組合間の合意形成



### トップの共通認識形成→担当者間→組合員の順の合意形成

#### 【初期段階（農協間（役職員）における共通認識の醸成）】

- 当初（平成28年頃）、各農協単独での選果施設改修を検討する中で、コストを試算したところ、各農協とも現行施設の1.5倍から2倍の負担発生見込みとなり、**単独改修が難しいことを確認**
- 県中部エリアの組合長会にて、**単独改修が困難であるという共通課題を、各組合長間で共有**

#### 【第二段階（担当者間での本格検討、農協間の合意形成）】

- 令和2年頃より中部地区の担当者間で広域選果場の本格検討を開始
- 生産者を交えた柑橘の会議体や業務担当者間で、**合意文書締結に向けた調整を継続的に実施**

#### 【第三段階（組合員の合意形成）】

- 令和4年度、**各組合員向けアンケート実施**  
（5年後の出荷量見込み、生産意向、施設利用料、横持運賃、規格・ブランド統一等）
- 令和5年度～6年度、**各組合員向け説明会**  
（JAしみず管内6支所で、延べ20回以上）
- 令和7年2月、「**柑橘共同選果場の共同利用に関する基本事項の合意書**」を、**3組合長連名で作成**
- 令和8年産から、**広域選果場を共同利用、規格とブランドを統一**



## 課題③ 施設の利用に関するルール等の洗い出し



### 農産物の取扱い

- 共同利用・一元販売する果実の種類：温州みかん及び中晩柑類
- ブランド：令和8年産より**ブランドを統一**（予定、名称未定）
- 出荷規格：変更なし**（AI選果の導入により集荷量は増加見込み）
- 販売方法：JAしみずが**一元選果販売**  
（各JAが有する販売先の共有により販路やロット拡大）
- 段ボール：規格の整理統合により、段ボールの種類を半数以下に
- 代金精算方法：JAしみずに入金後、出荷量・等級・階級等のデータとともに他の2JAに入金、各JAにて精算



### 集荷方法

- 既存施設の取扱い：**旧選果場を一次集荷場に活用**（出荷先の変更なし）
- 横持運賃：3JA共通経費として負担**（農業者の追加負担なし）
- 荷積み方法：バラ積み・バラ卸しであったものを、パレット化
- 運送会社：各JAで個別手配であったものを、JAしみずの配送子会社に一元化



### 施設の運営方法

- 利用料：3JAの協議にて決定**  
（各JAの一次集荷場から広域選果場までの横持運賃を含む）
- 選果場運営：**運営責任はJAしみず**、要請に応じて各JAは人員派遣
- 保守管理コスト：共通経費として出荷数量により各柑橘生産者が負担
- 大規模な保守修繕等の設備投資：運営委員会及び3JAで協議決定**
- 所有権：JAしみずの所有
- 運営委員会：選果場の基本事項を協議するため、**3JAの生産者代表、役職員、JA静岡経済連等で構成する中部柑橘選果場運営委員会**を設置
- 柑橘委員会：各JAの柑橘員会は、管内出荷者の取りまとめ等を担当



#### 課題④ 持続的な利用の確保 ※各取組は3JA合意済、実際の取組開始は令和8年11月以降



##### 組合員メリットの向上

- AI選果機を導入することで、家庭選果の作業量が減少し、**生産者の負担軽減**に。また、これにより生じた余剰労働力を**生産管理や規模拡大**に振り向け
- AI選果機のデータを生産者やほ場毎に蓄積・解析することで、**選果データを適切な営農指導につなげ、柑橘の品質が向上**



##### 出荷規格、ブランド等の統一

- **出荷規格の統一**により、段ボールの規格数を半数以下に削減することなどが可能となり、**流通コストの削減**につなげる
- **ブランドを統一**し、各JAが個別に有する販路を共有することで、販路及びロットが拡大し、**有利販売**につなげる



#### 課題⑤ 員外利用の確認



##### 設置場所や所有に係る検討

- 各JAの生産量や出荷量を調査し、重量や出荷額ベースで**JAしみずの組合員のシェアが8割を占めることを確認**、新たな広域共同選果施設は**JAしみずの所有**とした
- 当初は、広い敷地を有する他のJA内に設置という案もあったが、**数量が圧倒的に多いJAしみずに設置した方が、員外利用制限に抵触せず、追加の横持運賃の発生も抑制できる**ため、JAしみず管内に設置・所有する結論となった



## その他（今後の展望、他農協への助言等）



### 今後の展望

- 選果や土壌分析の結果、防除履歴などのデータを統合
- 組合員へフィードバック、栽培管理営農指導に情報を活用
- 農協の垣根を越えた高品質果実生産者の栽培技術の共有、高品質果実生産量の向上



### 他農協への助言等

#### 【連合会等による共通認識の醸成】

- 気候風土が類似した条件下で同じ品種を栽培する産地であり、従前より、**県経済連主催の中部柑橘委員会等の定例会合**を通じて、役職員や組合員間の繋がりがあり、**共通認識が醸成されていた**ため、規格・ブランドの統一、運営方針について、JAしみずが提示した今後の運営方針案について**賛同を得やすかった**

#### 【普段からの連携関係の構築】

- 広域選果場の再編に向けて、組合長や実務担当者、組合員など**様々な階層が連携、各JA間で不公平が生じないように、時間をかけて入念な調整**を行った
- 検討の過程で、**中央会や行政から受けた、補助事業の活用等に係る助言・支援も活用**

#### 【実施主体となるJAのリーダーシップ発揮】

- 複数JAによる施設の共同利用については、実施主体となる農協が**積極的なリーダーシップを発揮**することが重要（合意文書の前案作成、組合員向け説明資料の作成等）
- 各JAにおいて組織決定等が必要となるため、経営状況の確認や運営開始日時、今後の展望の洗い出し等、**数年かけて計画的に協議**を行うことが必要